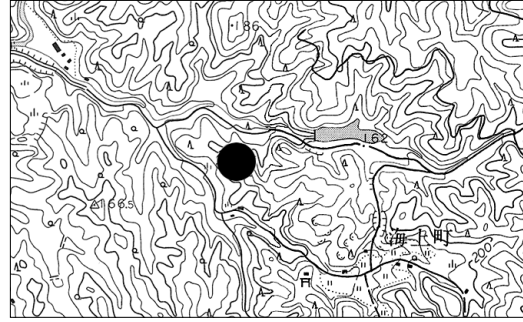


かいしょ
海上 B 窯跡 範囲確認調査

所在地 瀬戸市海上町
調査理由 新住宅開発にともなう事前調査
調査期間 平成 11 年 12 月
調査面積 100 m²
担当者 北村和宏・宇佐見 守・魚住英史

海上 B 窯跡は、海上砂防池南側の丘陵内に位置する山茶椀窯である。今回の調査は、遺跡の範囲確認調査として実施したもので、調査に先立って調査対象地で磁気探査をおこなった。その結果、斜面上部において 2 ヲ所で窯跡の存在が推定された。こうした所見および遺物の散布状況をふまえて、トレンチは総計で 19 箇所設定した。調査の結果、磁気探査の所見とほぼ一致する位置で窯本体が 2 基検出され、その下方斜面から谷底にかけて灰原が検出された。出土遺物はそのほとんどが山茶椀・小皿で、古瀬戸製品は数点が認められたにすぎない。



調査地点 (1/2.5 万「瀬戸・猿投山」)



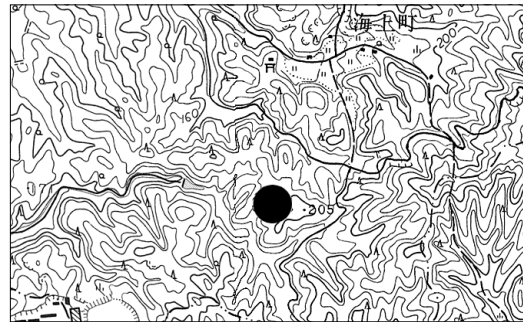
T . 17 S Y 02 検出状況

(北村和宏)

広久手第 24 号窯跡 範囲確認調査

所在地 瀬戸市広久手町
調査理由 新住宅開発にともなう事前調査
調査期間 平成 11 年 12 月
調査面積 100 m²
担当者 北村和宏・小沢一弘・織部匡久

広久手第 24 号窯跡は、吉田川北側の丘陵内に位置する。調査は、遺跡の範囲確認調査として実施したもので、調査に先立って調査対象地で磁気探査をおこなった。その結果、斜面上部において 2 ヲ所で窯跡の存在が推定された。こうした所見および遺物の散布状況をふまえ、開発対象地域(斜面下方)およびその周辺にトレンチを総計で 12 箇所設定した。調査の結果、灰原が斜面下方へ及んでいることを確認した。出土遺物はそのほとんどが山茶椀・小皿で、古瀬戸製品は少量が認められたにすぎない。(北村和宏)



調査地点 (1/2.5 万「瀬戸・猿投山」)



T . 12 灰原検出状況